

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	社会資源に繋がれない外国人のためのアウトリーチ型支援事業
資金分配団体名:	公益財団法人熊本YMCA
実行団体名:	ワールドフレンズ天草
実施時期:	2022年6月～2023年2月
事業対象地域:	熊本県天草地域
事業対象者:	在住外国人、外国人雇用企業/職場同僚、外国人に対する支援者

Version 3.2

日付: #####

I. 事業概要

事業対象者（事業で直接介入する対象者と、その他最終受益者を含む）	1. 天草地域在住外国人（504人） 2. 外国人雇用企業、職場同僚（504人） 3. 外国人支援に関わる日本人（584人） (1) 当事者家族（1を除く） (2) 人権擁護委員外国人部 (3) 熊本県警、天草消防、市町職員 (4) 国際交流市民ボランティア	事業対象者人数	1,592人	対象地域	熊本県天草地域
事業の総括およびその価値	多文化共生を推進する目的を持った地域の居場所は、天草地域にはこれまで1つもなかったところ、本事業により初の居場所が創設されることとなった。当初の目的にも掲げていた通り、外国人当事者が、支援を受けるだけではなく、地域の役に立っているという実感が持てる居場所となったことはその価値は大きい。 また、支援員養成講座で生まれた地域サポーターの方々が、すでに日本語教室ボランティアとして参加して下さっており、形だけの講座に終わらず、実践力のあるサポーターであることが実証され、今後の活躍が期待できる。 情報整備では外国人、雇用企業、行政、と各所と繋がりが生まれ、各々の困りごとやニーズが私共に集まるような仕組みができつつある。行政の新規事業として動き出してもおり、外国人を取り巻く地域の潜在的ニーズに効果的に切り込めたものだと考えられる。 今後、誰もが集える地域の居場所と、気軽に話を聞いてもらえる地域サポーター、外国人労働者を取り巻く環境についての情報整備によって、様々な背景を持つ市民がより暮らしやすい町となることを期待できることをもって本事業の総括とする。				

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	多様性を認め、多文化共生を進める場としての地域の居場所を創設し、当事者が地域の役に立っていると実感できる場にする、という事業設計については、ソフト面ハード面共にかなり難易度の高い内容だった。ただ、本地域においては同様の拠点はなく、まさに必要な事業内容であった。 支援員養成講座についても、広範な天草地域に散在している外国人を支援するにあたり、いくらインターネットが普及しても人が対面でいなければ支援には繋がらない現実から、欠かせない事業内容であった。 情報整備事業については、これまでだれも把握していなかったカテゴリーの情報整備であり、実際に可能かどうか非常に難しい部分も予見されたが、多くの立場の当事者がそのニーズを感じていたことから、さまざまな立場の方から有用な情報を提供いただき、やはりやってよかった内容だったと言える。 地方都市の中でも僻地地域に散財して生きる外国ルーツ住民の孤立を防ぐことは一筋縄では行かない重層的な問題を含んでおり、地域にある居場所、各人の能力を活かせる仕組み、気軽に話せるサポーター、外国人がどのように雇用されているのかの情報整備、と複合的な切り口での本事業設計は、大変難易度は高いが効果も高いものだったと言える。
-------------------	---

III. アウトプット（今回の事業実施で達成される結果）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
外国人・外国にルーツを持つ人	居場所の不足	地域の居場所ができることで、地域で多文化共生の交流が進んでいる。 外国人当事者の活躍の場が来ている。	居場所の名前やメニュー作り、イベントアイデアなど、一緒に参加してもらう人数が50人以上となっている。	居場所ができるまでの工程に関わってもらう人数が50人を超えている。	50人を超えており、その中でも新しく7名の方が運営側として深く関わってくださるようになった。	支援されるだけの当事者ではなく、地域の役に立つ人材としての存在になりえる仕組みであることが大変重要であった。僻地での不動産探しは予想以上に非常に難しいことが当初の想定を超えており難儀した。これまで関りのあった方々に協力いただきネットワークの重要性を再認識できた事業であった。
外国人・外国にルーツを持つ人	相談先の不足	外国人支援に特化した専門的なスキルを擁した支援員が増加することで、天草の中心部にいない外国人にも支援が届けられている。	支援員養成講座が無事終了し、全プログラムを修了した市民が地域にいる。	支援員が10名養成されている。	地域サポーターが64名登録された。	これまで、何か地域の役に立ちたいと思っている市民の方々が、本講座により日常生活に負担なくやりがいを感じる事が実現し、同時に困り感のある人達が同じ地域に気軽に相談できる人が存在する、という安心感を持てるようになった良い事業内容であった。
外国人・外国にルーツを持つ人	連携の不足	外国人に係る情報データベースができていて、外国人が安心して働くことができています。	データベースに具体的に有益な情報が保存されている。	情報数65件（5件×13か所）を目指す。	企業103事業所 労働者322名	実務に関わる者なら非常に難しい内容であることが分かる情報整備事業であるが、実施してみると、想像以上に協力者が現れ、皆必要なことだと認識されていたことが分かった。

IV. 短期アウトカム（事業終了後に目標とする状態）*

事業実施以降に目標とする状況	【地域の居場所】当事者を巻き込んだ安定的な運営を実現 【支援員養成】地域サポーターの方が今後も継続してやりがいをもって関わってくださる状況 【情報収集整備】常に新しい情報が反映されており、使えるデータベースであること
考察等	【地域の居場所】いつでも気軽に立ち寄れる場の実現とカフェとしての健全な経営の実現をバランスをとることが重要である。 【支援員養成】地域サポーターの方が今後も継続してやりがいをもって関わってくださる状況 【情報収集整備】常に新しい情報が反映されており、使えるデータベースであること

V. 活動

活動	進捗	概要
----	----	----

地域の居場所づくり	遅延あり	<p>拠点となる不動産契約が遅れたため、改修工事、スタッフ研修がそれぞれ遅延した。現在、改修工事が順調で完成しだいスタッフ研修をおこない、居場所として活動開始予定である。「居場所づくり」の新しい仲間が増え、7月から毎週1回のスタッフミーティングを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やるべきことを議論し、各々意見を出し合うことで方向性を共有することができた。 ・運営経費を賄う方法を思案し、これまで団体でやってきた活動全体の見直しをおこなうことができた。 ・地域の方や相談した専門家等を含め新しく関わりを持った方たちに活動を知っていただく大切さに改めて気づいた。
支援員養成講座	計画通り	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域サポーター講座」と「日本語ボランティア講座」を計6回実施、のべ67名が参加 ・20代～70代まで幅広い年齢層が参加 ・参加者の約2/3が当団体やその活動に参加するのが初めて ・新しく7名が日本語教室のボランティアに加わった ・参加者の91%が「外国人から相談されたら自分が出来そうなことなら動いていい」と回答があり、遠隔地支援の連携体制の構築につながった
雇用に関する情報整備	計画通り	<p>【情報収集方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての天草市在住外国人へアンケート郵送 ・企業からの情報提供 ・人づてに紹介してもらい聞き取り ・日本語教室で聞き取り ・地域で見かけた外国人に聞き取り <p>【これまでに集めた情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人雇用企業数 ・働く外国人の個人情報 ・在留資格別人数 ・住所別外国人の人数 ・外国人雇用がある業種別企業数 <p>対象外国人だけでなく企業や近隣自治体から外国人支援について相談いただく機会が増え、これまでなかった地域や分野にも事業の広がりをみせている。</p>

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<p>【居場所】</p> <p>居場所スタッフになってもらえそうな人たちに個別に声をかけているなかで、「日本人とコミュニケーションをとるのは苦手だが、外国人や文化の違いに理解がある場所ならぜひ働きたい」また、「カフェで働きたいという夢を持っていたが、どのように実現すればいいのか見当もつてなかったのに、それが実現できそうなので、ぜひ関わらせてもらいたい」という気持ちを聞くことができた。</p> <p>【支援員養成講座】</p> <p>講座のための資料を作成したことによって、これまでの活動が整理されて一つの資料としてまとめることができた。そのため、急に依頼された他自治体からの視察や県や国の機関からの新規事業の打診に迅速に対応することができ、予想以上に役立った。</p> <p>【情報整備】</p> <p>情報整備事業を天草地域全体に広報することによって外国人雇用企業側から連絡をいただく機会が増えた。企業からのご相談を受け、新しい地域や事業所からの新規事業見積もり作成の依頼を受けるなど、これまで支援が行き届かなかった地域や分野にも広がりをみせている。</p>
---------------------	--

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<p>地域の拠点づくりについては周囲を巻き込んで一緒に作り上げることを大切にしてきた甲斐あって、当初の目的以上に、対象者にとって、「自分が関わった場所」という感覚を持ってくれたようである。より積極性が生まれたメンバーも出てきているのが嬉しい。</p> <p>支援員養成講座を実施したことで、新旧の支援員どちらにも良い刺激が生まれ活性化した。外国人にとっては日本語教室で会う新しい日本人のメンバーが増え、純粋により楽しくなったようでよかった。</p> <p>情報収集を行ったことにより、当事者が「自分たちの意見を聴いてくれる所があるんだ。意見や相談事を話してもいいんだ。」という意識を持つようになってくれたのは嬉しい変化であった。</p>
-----------	--

VIII. 外部との連携実績

連携先	実施内容・結果
天草市政策企画課	支援員養成講座を受けた日本語ボランティアを市の事業である日本語教室で受け入れ、外国人の労働に関する情報収集のために、毎年実施している全外国人住民へのアンケート調査に労働に関するアンケートも同封して郵送してもらった
天草市産業政策課	外国人雇用企業を支援するという切り口で連携し、新規事業の立ち上げにつながった。物件を探す際に産業政策課の空き家バンク内の物件をいくつか紹介いただき、また新規事業者向けの家賃補助制度を次年度から使わせてもらうことになった。
熊本県労働雇用創生課	「外国人受け入れのための異文化理解・やさしい日本語講座」への連携協力。
熊本県観光交流政策課国際交流班	日本語教室ゼロの自治体に日本語教室を立ち上げる際、コーディネーターになってもらえないかとの打診をいただいた。
人権擁護委員	支援員養成講座を委員全員に受講してもらい、今後地域サポーターとして協力体制を作ることができた。
天草すまいとまちなみ研究室	居心地のよい地域の居場所となるよう、ご助言いただいたり、備品や什器を譲っていただけの方とつないでいただいた。
ハローワーク	外国人雇用企業の情報収集にあたり、公開可能な情報を提供していただいたり、今後協力体制をとることを快諾いただいた。
縁側moyai	同じ実行団体として情報共有や意見の交換をした。
繰税理士事務所	法人化するタイミングをどのように判断するか相談にのっていただいた。今年度は任意団体のままが良いとアドバイスいただいた。

IX. インプット（最新の資金計画書をもとにご記載ください。精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	助成金の合計	10,000,000	10,000,000	100.0%
	自己資金（計上している場合のみ）	439,777		0.0%
合計		10,439,777	10,000,000	95.8%

補足説明	特になし
------	------

X. 広報実績

広報内容	内容

1.シンボルマークの活用状況（掲載箇所を記載してください）	作成資料、チラシ、ホームページ、Facebook、Twitter、地域の居場所建物（予定）
2.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	当団体ホームページ https://wf-amakusa.com/ 当団体公式LINE、Facebook、Twitter 天草市市政だより、天草市ホームページ
3.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	・天草在住外国人にアンケート調査周知チラシ 9月に350部印刷 郵送 ・外国人サポーター養成講座チラシ（2種類/一般用・人権擁護委員用）9月に50部 関係各所に配布、設置
4.報告書等	団体総会資料

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.上記設問3で「一部公開」または「未公開」を選択した場合、その理由と公開予定日を記載してください。		
5.変更があった規程類に関してに資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
6.上記設問5で「変更があったが未報告」を選択した場合、その理由を記載してください		
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.上記設問1で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください		
3.内部通報制度は整備されていますか。	はい	
4.上記設問3で「はい」を選択した場合、設置方法を選んでください。	JANPIAの窓口を利用	
5.【非公開】上記設問3で「はい」を選択した場合、内部通報制度への通報の有無を回答してください。	通報はなかった	
6.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
7.上記設問6で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。		
8.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
9.上記設問8で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。		
10.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しましたか。	はい	
11.上記設問10で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。		
12.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
13.【任意】上記設問12で「はい」を選択した場合、どのような検討・実施をしたか事例を記載してください。		他の組織のガバナンスコンプライアンスの状況を調査し、当団体に効果が高そうなものを取り入れる検討をした。
14.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査 <input checked="" type="checkbox"/> 内部監査	

(実施予定の物口名) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 実施予定はない
15.上記設問14で「外部監査」「内部監査」を選択した場合、実施者や実施内容について簡単に記載して下さい。	団体監事が通常総会時におこなう監査と同様に監査実施予定。
16.【非公開】報告対象となる不正行為を資金分配団体に報告済ですか。	不正行為はなかった
17.上記設問16で「不正行為があったか未報告」を選択した場合、その理由を記載してください。	
18.【非公開】代表者変更・役員変更・住所変更等があった場合に通知書の提出を行っていますか。	変更は無かった

XII. その他

自由記述
<p>地域の居場所について、当初より安定的運営の永続性担保のため、カフェ等飲食のサービスを内包する予定であったが、調べれば調べるほど一般的なビジネスとして検討しても飲食店経営の利益率の低さに驚いている。</p> <p>地域の居場所として、楽しく気軽に立ち寄ってもらえ、しかもいつでも開かれている居場所とするためには人件費が膨大になる。</p> <p>開いている時間が長ければ長いほど経費が高むため、どれくらいの人件費を飲食店経営や本体予算で賄い、どれくらい居場所のオープン時間を広げられるのか、ちょうど良いバランスの見極めは今後運営し始めてから精査していかなければならない。また、他の地域の居場所を運営されている先進事例を視察に行くなどしてさらに学んでいきたい。</p>

【添付資料】

活動の様子がわかる写真 5枚程度

JANPIAの事業報告書やWEBサイト、SNS等で公開可能な写真を5枚程度(1枚2MB以下)ご提出ください。(肖像権・著作権に十分にご注意ください。)

それぞれどんな場面の写真なのか、1枚あたり50字から200字程度で説明を記載していただきますようお願いいたします。

※ご提出をもってJANPIAでの使用にご了承いただいたこととし、使用時に改めて確認はいたしませんので、ご承知のうえ、使用に差支えない写真(使用許可をとった写真や個人が特定される写真を避ける等)を選んでいただきますようお願いいたします。